栃木 全県版
日本建設新聞社(令和6年)（昭和34年11月26日 第3種郵便物認可）
日刊(日、月、祝翌日休刊)

日刊建設新聞
The Nikkan Kensetsu Shimbun

11月14日 木曜日
2024年 第10028号

発行所
日本建設新聞社
宇都宮総局
宇都宮市本町9－12
電話028-622-8111(大代表)

インタビュー

柴田建設(株)

全社員が働きやすい会社に

働き方改革や女性の活躍を推進

県の本年度の「男女生き活き企業」コンテストの優秀賞を受賞し、宇都宮市の男女共同参画企画推進事業者表彰で「きらり大賞」も受賞した柴田建設株式会社の柴田道夫代表取締役に、働き方改革や女性の活躍推進の取り組みについて話を聞いた。柴田代表取締役はこれらの取り組みを始めた経緯について、今後も会社を持続していくには、若い社員を確保する必要性を感じたためと説明。今後については、社員全員が生き生きと楽しく仕事ができる会社にしたいと話した。

柴田 道夫 代表取締役

1953年2月22日生まれの71歳。宇都宮市出身。2016年9月に柴田建設の代表取締役に就任し、21年6月からは一般社団法人栃木県建築士会の会長も務める。

家族は夫人と男子3人で、子供はいずれも独立し、現在は夫人と宇都宮市に2人暮らし。趣味はゴルフのほか、以前はバンドを組んでいて、今でもギターを弾いている。

「昔はオリオンスクエアで親父バンドの演奏をしたり、集まりがあるとそこで演奏したりしていました。今でも小牧工業の小牧伸敏社長の自宅スタジオに集まって練習しています」と話す。

―働き方の見直しなどの取り組みはじめたきっかけは

弊社は長らく建設業を営み、今年で創業68年になりますが、時代の変化とともに、旧態依然とした会社のあり方では人材の確保が難しくなってきていました。さらに、社員の高齢化も進みつつあり、ここで若返りをしないと新しい時代についていけないのではという思いがありました。

また若い社員から、これまでの不便なところや非効率なところを改善して働きやすい会社にしたいという要望もあったことから、副社長を中心に若い社員たちで4～5年前から少しずつ取り組み始めました。

―取り組みを始めて、難しかったことや苦労した点は

今回、特に女性に多く入社していただいたのですが、女性が入社したから取り組みを始めたということではなく、ここにきて女性の社会進出もあり、工業系の学校を志望して卒業後に建設会社に就職される方も増えており、女性社員を応援する取り組みが必要だと思いました。

難しかったことを敢えてあげるとすれば、ベテランの社員と若い社員とのコミュニケーションでしょうか。やはりベテランの社員には昔からのやり方があるでしょうから、それを急に変えるのはなかなか難しそうでした。

―取り組んでみて効果は

今までないがしろにしていた休日の取得や残業などが改善し、休日出勤も減りました。若い社員はもう、残業ゼロで帰宅するような働き方になっています。

我々が現場に出ていた時とは違い、協力会社の方々もすごく進歩して良い会社が多くなっており、段取りをきちんとすれば、後は任せても仕事を進めていただけます。そういった協力会社さんのご協力もあって、女性でも新入社員でも現場で働きやすくなっていると思います。

―具体的な取り組みとして、仕事や身体、心の悩みのケアのための社内相談室の設置や、25歳以下の社員による「U―25」の立ち上げ、フリーアドレスオフィスの導入などを行っている

社内相談室は女性社員が窓口となって、相談者の意見を聞いて対処しています。「U―25」は男性3人と女性3人の計6人で構成しており、メンバーの意見をもとにユニフォームやヘルメットのデザインを変えてみたり、DXを取り入れたりしています。

DXは、新しいソフトをどうしましょうと言われても我々にはわからないですから、若い人の意見で決めてもらって、ダメならまた違うのにすればいいんじゃないかって話をしています。

フリーアドレスオフィスは、建設担当者は基本、現場へ直行・直帰します。事務所では事務作業をする必要がないので、どこに座ってもいいということにしました。今はもう、ノートパソコンがあればどこでも仕事ができます。事務所内がシンプルになって見通しも良くなり、机の上も片付けられて綺麗になりました。

―働き方改革や女性の活躍に関する今後の目標は

社員全員が生き生きと、楽しく仕事をして生活をしていけるような会社にしたいと思っています。創業70年をこえても持続していく会社にしなければならないですし、特に今後は若い人の時代ですから、若い人の提案をできるだけ取り入れて働きやすい会社にしていきたいと思っています。